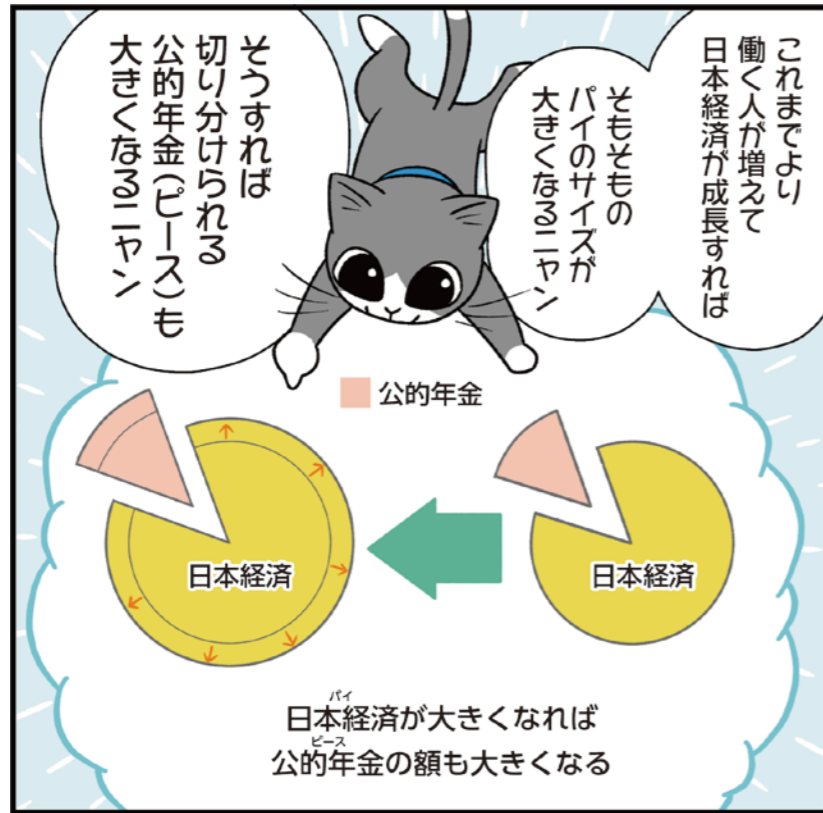


公的年金を よりよく していくために

公的年金は現役世代が高齢者を支える仕組み
ですので、支え手がいれば日本経済が続いていく
限り公的年金制度がなくなることはありません。
また、公的年金の給付は、実質的な価値を保障
するため経済状況に連動しています。
つまり、日本経済の規模自体が拡大すれば、年金
給付に使える金額も大きくなるのです。

パイ ピース
日本経済が大きくなれば、公的年金の額も大きくなる

これまでより多くの方が長く働き続けることで、日本経済をより良くしていくことが大切です。日本経済が成長すれば、より将来の年金を充実させることができます。



いっしょに検証！公的年金
～年金の仕組みと将来～

詳しくは、マンガで分かりやすく解説したこちらのホームページをご覧ください。
<https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/>

*デバイスによっては読み取れない場合があります

公的年金による 社会全体の支え合い

公的年金制度が今ほど普及していなかったころは、家族や親族で高齢者を世話していく「私的扶養」が一般的でした。



私的扶養で暮らして
いけって言われたら
家族にも負担を
かけてしまうかも
しれんの

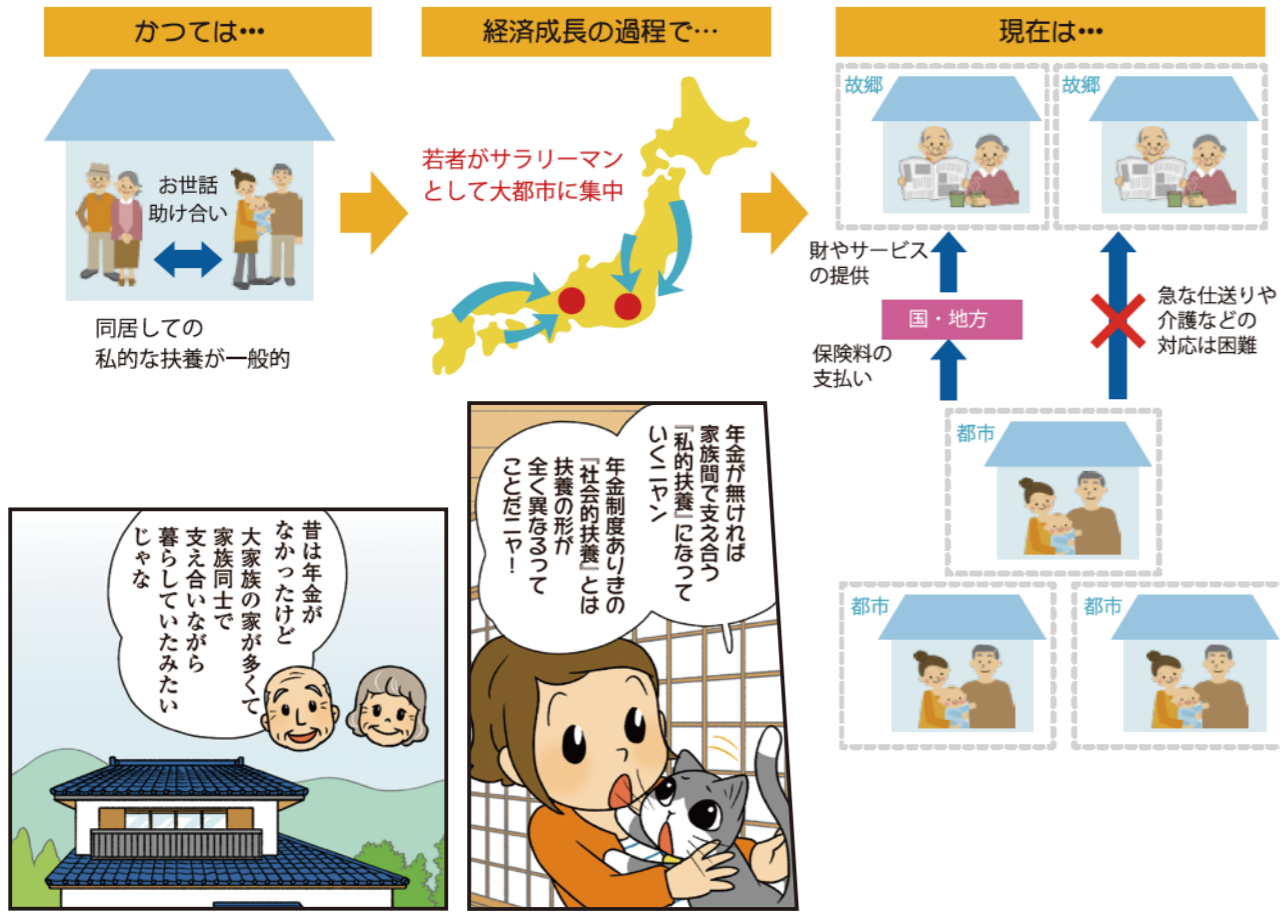
扶養には大きく分けて2つの仕組みがあるニヤン！

【社会的扶養】
現在の公的年金のように社会全体で負担して支え合う

【私的扶養】
家族や親族で支え合う

わたしたちも肩身の狭い思いをするかも
しれませんね…

私的扶養から社会的扶養へ



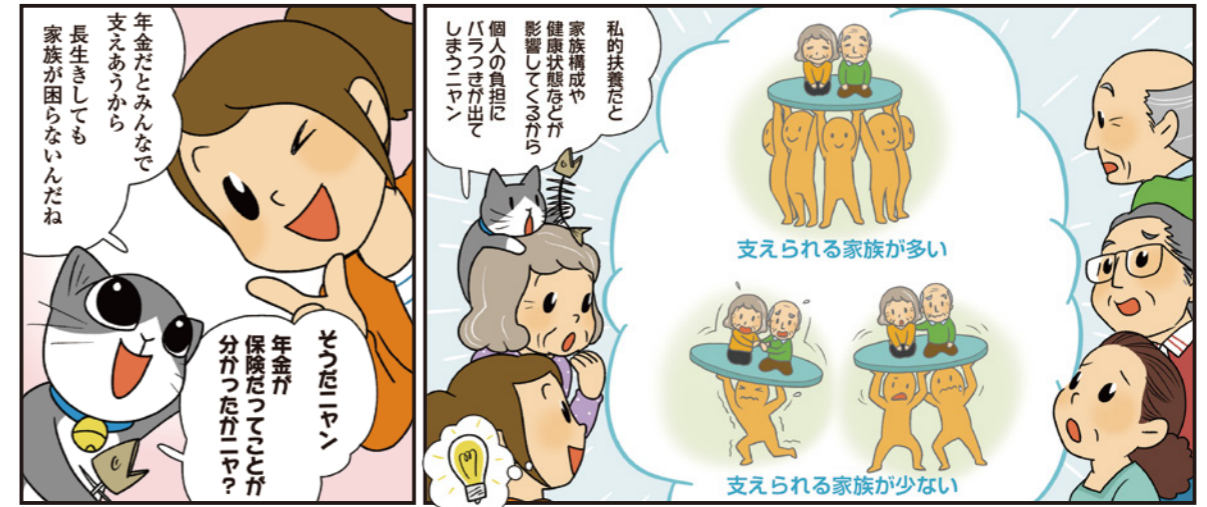
公的年金制度がなかった、または未成熟であった時代は、家族などが高齢となった親の扶養をすることが中心でした(私的扶養)。
現在は公的年金制度が充実し、高齢者の生活の支えとなってきたため、家族などが親を扶養する負担は昔と比べ、軽くなりました。
親の扶養が、家族などによるものから公的年金に移行していったのです(社会的扶養)。

社会的扶養の意義

今、年金制度をやめて私的扶養をしたらどうなるのでしょうか。



昔は兄弟が多くいましたが、今は一人っ子も増えました。また、お年寄りも元気に長生きになりました。私的扶養では、家族構成や親の年齢・健康などが影響して、個人の負担にばらつきが出てしまいます。現役世代の負担を均等にする意味でもみんなで協力して支える必要があります。



また、公的年金が普及している現在においては、公的年金の社会的扶養の役割を忘れがちですが、現役世代は親に対する経済的な心配が減り、高齢者は自分の子どもに負担をかけないで経済的に自立した生活を送りやすくなります。

現役世代も実感できる公的年金のメリット

公的年金には、「老齢年金」という長生きに対する保障だけでなく、けがや病気などで障害を負った場合に支給される「障害年金」、家計の担い手が死亡した場合に支給される「遺族年金」があります。予測が難しいけがや病気などに対してみんなで支えあう保険の仕組みです。公的年金の保険料を納めることで、生涯にわたって安心を得ることができます。



たとえば、みんな国民健康保険、協会けんぽや組合健保の保険料を払っているとニヤ。だけど、こうした公的医療保険は、けがをしたり、病気になったら、りしなければ給付は受けられないニヤ。これを損だと思わないニヤ？

いつ病気になるかはわからないし、万一のことを考えると安心できるから、病気にならなかったって損だとは思わないわね



年金というと払った保険料と給付される年金額の大小といった経済的な損得に目が行きやすいですが、公的年金が持つ「安心」のメリットにもっと目を向けてもいいのではないのでしょうか。